

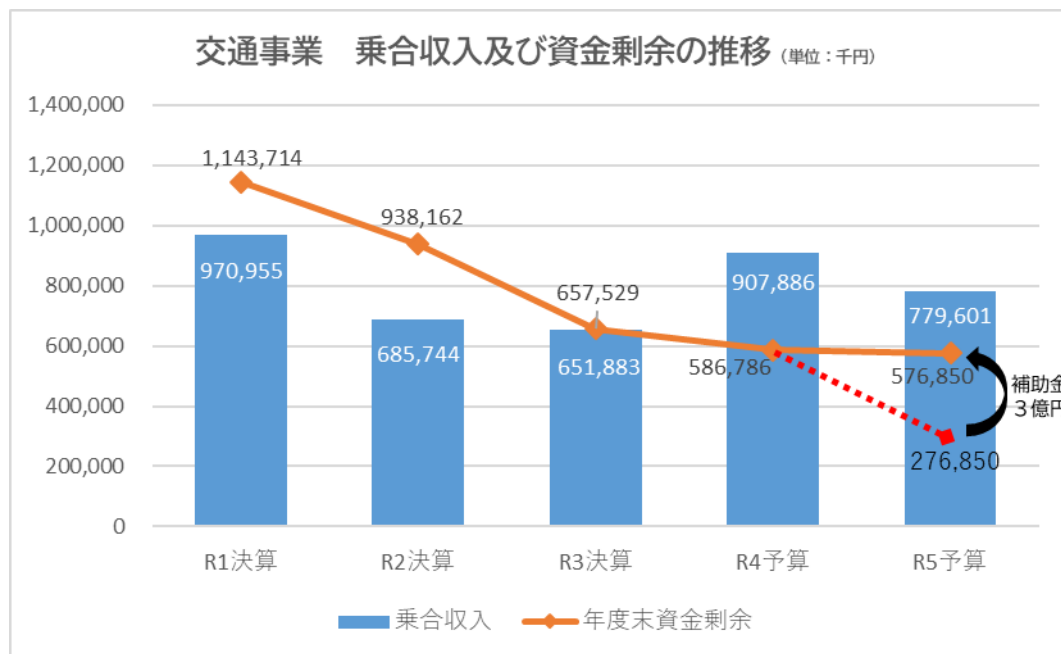
交通政策について (交通局における経営改善の取組みについて)

1 交通事業の現状

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、乗合収入が令和元年度と比較して約34%減少したことなどにより、累積資金剰余が約6.5億円まで減少した。

令和4年度は、乗合収入が令和元年度と比較して、約2割減で推移している。

令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した「乗合収入」が、コロナ禍前の水準まで回復せずに推移していくと想定している。



2 経営改善の取組み

(1) これまでの取組み

厳しい経営状況を改善するために、交通局では、これまで車両の適正化や効率的・効果的なダイヤ編成の見直しなどの経営改善に取り組んできた。

(2) 今年度以降の取組み

ア 経営改善の体制強化

令和5年4月に、経営改善専任（課長1名、係長1名）を配置し、局内プロジェクトチームにより、経営改善に集中的に取り組んでいる。

イ 目標

収支均衡（目標額：3億円）を目指す。

ウ 経営改善に向けた基本的な考え方

- 交通局のみで取組みが可能な経営改善はスピード感をもって進めていく。
- 路線バスのあり方を含めた北九州市における公共交通の将来像とそれを実現する方策について検討に着手したところであり、交通局としてもこの議論に積極的に参画していく。

エ 経営改善の具体的な項目

- 増収対策
 - ・乗合バス利用者の拡大
企業誘致を促進するための路線整備(学術研究都市・響灘地区をターゲット)
 - ・貸切受託の営業強化
若松区の観光地化との連携
- 筋肉質な経営体質への転換
 - ・効率的・効果的なダイヤ編成の見直し
 - ・効率的な路線のあり方 (維持すべきエリアと維持困難なエリアの整理)
 - ・適正な運賃体系の検討
 - ・シェイプアップに向けた取組み
- 乗務員確保
- 利用者の声の反映
- 公共交通としての市営バス事業のあり方の検討

3 令和4年度の利用状況

(1) 乗合バスの現状

令和4年度は、黒字路線が13系統(16.0%)、赤字路線が68系統(84.0%)という状況である。

※令和4年度上半期(令和4年4月～令和4年9月)

黒字路線：12系統(14.8%)、赤字路線：69系統(85.2%)

※令和4年度下半期(令和4年10月～令和5年3月)

黒字路線：13系統(16.0%)、赤字路線：68系統(84.0%)

(2) 路線ごとの利用状況

令和4年度は、乗合バス全体として、100円の収益を上げるために約132円の費用を要している状況(上半期：約132円、下半期：約133円)。

※「営業係数」は、路線ごとの黒字赤字を示す指標。

100円の収入を得るための経費を示し、100を超えると赤字。

(3) 路線ごとの「1便当たりの利用者数」及び「営業係数」

別紙「令和4年度 利用状況」のとおり。

(4) 利用状況の公開

交通局ホームページ等にて利用状況を公開する。